

竹の子川柳会

さわやかな笑顔を見ると幸せだ

中二 菅元

聖羅

かぎをもち未来のとびらあけ進む

小五 梶野

海斗

ぼくをさす明るい光まどの外

小六 梶野

峰士

父さんと仲良く使うバスタオル

高二 宮川

直輝

光る汗白いタオルにすいこまれ

高二 横

美咲

あたたかいタオルのような優しい手

高三 横

美琴

真っ白なタオルに母の愛をみる

高三 山口はると

ボランティアみんなにえ顔配るんだ

小四 山田

清也

幸せを周囲にもっと配りたい

高一 宮崎

京

温かい心配りで人助け

高二 上岡

夢菜

にらめっこじっくり見たらわらったよ

小二 上岡

涼楓

じっくりとべんきょうをするひやくてんだ

小一 新野

翔太

貝がらを耳にあてたら海の音

小六 瀧本ななみ

あおりんごいっぱいいたべたあかとあお

小一 西村愛李瑠

戦するヒト科作った神の悔い

男武志津江

じっくりと話してわかる人間味

伊勢本 恵

番組に誘われいつか夜が白む

米子 達雄

人の世の番組表はミステリー

水野すみこ

番組欄見てから今日のスケジュール

山本 雅之

番組の中をさがせば知恵の種

渡辺 光男

年の功カーブも交ぜておつき合い

渡辺 照子

生活にいつも重宝爺の知恵

川添 忠昭

渇水期重宝がられ涸れぬ井戸

宮川 柳酔

販売車買い物たすけ山の里

熊本 忠真

重宝は解雇もなく野良仕事

若宮 賢敬

人口が減って空屋が増すばかり

宇津本アヤ子

鬼北の足跡を辿る…【鬼北の霊山 第3回】

鬼北の霊山 「高越森遺跡」

今回は、奈良中にある高越森遺跡を取り上げてみたいと思います。

この遺跡は、中野川本谷地区と奈良中地区の間に位置する丘陵頂部、標高477.8mの地点にあります。地元ではトンギリ山と呼ばれますが、『広見町誌』によれば正式名は「高越森山」のようです。

山頂に登ると、東西33m、南北13mの範囲に、平面形楕円に近い形状で縁に沿って幅2×2.5mの土塁(石塁)をぐるり廻らせた遺跡があります。北面で土塁が途切れる箇所があり、そこが入口となっています。入口部分を発掘調査したところ、地山を削って造った階段と門があつたことが判りました。門をくぐると、お城の平坦部(郭)とは違って平坦になつておらず、真ん中付近が1.5mほど高く、周囲の土塁に沿って通路状の平らな面がぐるりと続いています。真ん中の頂部には平らな石を向かい合わせで二枚立て、その立石の周りを四角形に石組みをした石組遺構があります。

戦国時代に奈良周辺を治めたとされる坪之内氏の城「川後滝城」とされていましたが、城と

しての機能を全く有していないため、山城とはいえない。では、何のために造られた遺跡なのか。

現状では、山岳修験の道場という説が最も有力です。周囲を土塁により境界して聖域とし、中心に置いた石組遺構は祭壇で、自然石の立石は山の神(権現)の依代で石鉢といえます。この祭壇の背後には高月山が見えます。柴灯護摩を焚く護摩場となっていた可能性が高く、今後の調査で裏付けがとれるかもしれません。また、この遺跡のすぐ南の谷には金剛滝が位置しています。これらは奈良山信仰に基づく等妙寺の僧や聖、山伏などの修験者らの修行の場として認識されるのです。



等妙寺橋から眺めた高越森山

ひよし川柳会